

訃報

## 藤江英輔氏死去

中央大学学生歌「惜別の歌」作曲者

「惜別の歌」の作曲で知られる藤江英輔氏が10月14日、肺気腫のため死去した。90歳だった。

中央大学予科生当時の1944年、勤労働員先の軍需工場で、出征していく友人たちのために島崎藤村の詩をもとに「惜別の歌」を作曲した。戦後にヒットし、歌謡界では小林旭さんのレコード化により多くの人が歌唱した。中大では学生手帳に曲と歌詞が記載され、「第二校歌」として、いまも卒業式などで歌い継がれている。

藤江氏は1950年に中大卒業後、新潮社で編集者となり、のちに広告部長も務めた。2010年秋、中大創立125周年の多摩キャンパスで講演し、曲ができるまでのエピソードを披露

した。本誌2010年「125周年記念号」記事から抜粋する。

勤労働員の夜勤を終えた雪の降る朝、下駄に雪が食い込み、たびたび転倒した。

「突然、嘔き出したのは、あの『惜別の歌』の第3節、『悲しむなかれ わが友よ』。あのメロディーが嘔き出したのです」(中略)

「家に帰って1日でそれに曲を付けました。それから工場に通って旋盤を動かしている最中に『遠き別れに 耐えかねて この高樓に のぼるかな 悲しむなかれ わが友よ 旅の衣を整えよ』と口ずさみながら旋



創立125周年で講演する藤江氏

盤を動かしていると、みんながそれを聞いて、『それはどういう歌だ。おれにも教えて』と。発表したわけでもないのですが、みんなが覚えてくれたのです」

講演では、学生に向けて「少し長い目でものを見てもらいたい。10年先はどうなるのか。そのくらいは考えてみましょう」と問いかけた。講演後には「惜別の歌」の指揮をして、参加者が大合唱した。2010年10月6日のことだった。

## 司法試験合格者全国1位、244人が合格の栄冠をつかむ

難関の国家試験を突破した中央大学司法試験合格祝賀会が10月27日、東京都内のホテルグランドヒル市ヶ谷で行われた。法科大学院別の合格

者170人は全国1位。学部出身の合格者を含めると244人(10月27日現在、本学把握)にのぼる。

祝賀会には約200人の合格者が集

まった。胸には受付で用意された祝いの赤いバラ。入場時には中大応援歌「ああ中央の若き日に」が流れ、出席者のなかには後半の歌詞、♪力力 中央 中央と口ずさむ人もいた。

来賓の中大OBで最高裁判所・小貫芳信判事

中央大学司法試験合格祝賀会

が祝辞を述べた。「1日、1センチでも努力する。これを1年、10年と続けた人にはかなわない。自分を高めていく気持ちを持ち続けて前進していただきたい」

合格者からは法科大学院出身を代表して、試験成績全国1位の古川翔さんが、学部卒業生代表では野田貴昭さんが、それぞれ思いを込めた謝辞を述べた。

懇談中、金屏風を背にした壇上で記念撮影会が急きょ行われ、合格者と指導に当たった恩師らが笑顔でカメラに収まっていた。



祝辞を述べる小貫最高裁判事